



Japan
Food
Research
Laboratories

第 13078378001-01 号 page 1/16

2013年(平成25年)10月22日

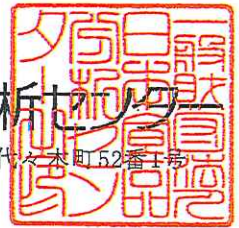
試験報告書

依頼者 株式会社 日本衛生システム

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木1-52番1号



検 体 本報告書中

表 題 殺菌効果試験

2013年(平成25年)08月07日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 日本衛生システム

2 検体

- 1) スーパーアルファ水
- 2) エタノール

3 試験目的

検体の微生物に対する殺菌効果を試験する。

4 試験概要

検体に枯草菌(芽胞), 枯草菌, 大腸菌, 大腸菌(血清型O157:H7, ベロ毒素 I 及び II 型産生株), 緑膿菌, 黄色ブドウ球菌又はクロカワカビの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 20℃で保存し, 10, 30及び60秒並びに5及び10分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。また, 培養後の生菌数測定平板の一例を写真-1~21に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地(クロカワカビはGPLP培地)で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)					
		開始時*	10秒後	30秒後	60秒後	5分後	10分後
枯草菌 (芽胞)	検体1)	8.0×10^7	9.9×10^7	8.5×10^7	3.7×10^7	<10	<10
	検体2)	9.8×10^7	1.3×10^8	1.1×10^8	1.2×10^8	7.9×10^7	8.6×10^7
枯草菌	検体1)	1.5×10^7	70	20	<10	<10	<10
	検体2)	1.5×10^7	2.4×10^2	1.6×10^2	1.9×10^2	1.9×10^2	1.5×10^2
大腸菌	検体1)	3.3×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
	検体2)	3.3×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
大腸菌 (O157:H7)	検体1)	5.4×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
	検体2)	5.4×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
緑膿菌	検体1)	6.5×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
	検体2)	6.5×10^7	<10	<10	<10	<10	<10
黄色 ブドウ球菌	検体1)	1.4×10^8	80	<10	<10	<10	<10
	検体2)	1.4×10^8	<10	<10	<10	<10	<10
クロカワ カビ	検体1)	1.3×10^5	<10	<10	<10	<10	<10
	検体2)	1.3×10^5	<10	<10	<10	<10	<10

<10 : 検出せず

保存温度 : 20 °C

試験液 : 検体49 mLに試験菌液1 mL(大腸菌は検体10 mLに試験菌液0.1 mL)を添加, 混合したもの

* 添加菌液の生菌数を測定し, 試験液1 mLあたりに換算した。

6 試験方法

1) 試験菌

- ① *Bacillus subtilis* NBRC 3134(枯草菌)
- ② *Escherichia coli* NBRC 3972(大腸菌)
- ③ *Escherichia coli* ATCC 43895(大腸菌, 血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及び II 型
産生株)
- ④ *Pseudomonas aeruginosa* NBRC 13275(緑膿菌)
- ⑤ *Staphylococcus aureus* subsp. *aureus* NBRC 12732(黄色ブドウ球菌)
- ⑥ *Cladosporium cladosporioides* NBRC 6348(クロカワカビ)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

試験菌①, ③, ④及び⑤

標準寒天培地[栄研化学株式会社], 混釈平板培養法, 30 °C ± 1 °C, 3日間

試験菌②

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混釈平板培養法, 30 °C ± 1 °C, 3日間

試験菌⑥

ポテトデキストロース寒天培地[栄研化学株式会社], 混釈平板培養法,
25 °C ± 1 °C, 7日間

3) 試験菌液の調製

試験菌①(芽胞)

ソイビーン・カゼイン・ダイジェストカンテン培地[栄研化学株式会社]で35 °C ± 1 °C, 7~10日間培養した試験菌の菌体を生理食塩水に懸濁させ, 70 °C ± 1 °C, 20分間加熱し, 栄養細胞を死滅させた。この懸濁液を遠心分離して上澄み液を除いた後, 菌体を生理食塩水に懸濁させ, 菌数が約10⁹/mLとなるように調製し, 芽胞液とした。芽胞液そのものを試験菌液とした。

試験菌①~⑤

試験菌を普通ブイヨン培地[栄研化学株式会社]で30 °C ± 1 °C, 24時間, 振とう培養(約100 r/min)した。得られた培養液を遠心分離(3000 r/min, 10分間)して上澄み液を取り除いた後, 菌体を生理食塩水に懸濁させた。再度遠心分離(3000 r/min, 10分間)し, 上澄み液を取り除いた後, 菌体を生理食塩水に懸濁させ, 菌数が10⁸~10⁹/mLとなるように調製し, 試験菌液とした。

試験菌⑥

試験菌をPotato Dextrose Agar(Difco)で25℃±1℃、7日間培養した後、胞子を0.1%ポリソルベート80(Tween80)加生理食塩水に懸濁させ、不織布フィルターでろ過後、ろ液を氷冷し、遠心分離(5℃、12000 r/min、5分間)した。次に、上澄み液を取り除き、胞子を生理食塩水に懸濁させ、再度遠心分離(5℃、12000 r/min、5分間)した。さらに、上澄み液を取り除き、胞子を生理食塩水に懸濁させ、遠心分離(5℃、12000 r/min、5分間)し、上澄み液を取り除いた。菌体を生理食塩水に懸濁させ、菌数が $10^6 \sim 10^7$ /mLとなるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体49 mLに試験菌液1 mL(試験菌②は検体10 mLに試験菌液を0.1 mL)接種し、試験液とした。20℃±1℃で保存し、保存10、30及び60秒並びに5及び10分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社](試験菌⑥はGPLP培地[日本製薬株式会社])で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。